

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972700413		
法人名	医療法人 普門院診療所		
事業所名	グループホーム能羅坊		
所在地	栃木県芳賀郡益子町益子25番地		
自己評価作成日	令和元年12月3日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop20
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和元年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、里山や農家散在する自然豊かな場所にあり、母体である医療法人が認知症介護の必要性を感じ開設したホームである。開設に当たっては、高齢者福祉の先進国であるスウェーデンから専門家を招いて研修を行ったり、職員をスウェーデンに派遣しグループホームのノウハウを習得している。「他者を自己と平等とみなして個性と尊厳、本人の意思を尊重して本人の立場に立ってサービスを提供すること」を理念に掲げ、職員は明るく優しい言葉かけや態度で入居者様に接している他、音楽療法も取り入れているなど、入居者様の張り合いにもつながっている。地域住民を対象に認知症についての講話をしたり地域に開かれた施設運営に努めている。また、地域住民と避難訓練を行ったり、運営推進会議に消防署職員にも参加してもらおう等、災害時の協力体制も構築されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所は、スウェーデン様式の建築を採用しており、居室やリビング、浴室を広くとり、開放的な作りとなっている。また、各居室にはシャワーも完備されており、身体状況によりシャワー浴が気軽にできる。玄関は、季節に合わせた花が飾られ、利用者の安らぎの場となっている。食堂にはピアノや大きなソファが設置されており、利用者が思い思いに寛げる空間となっている。
 ・母体が医療法人のため、事業所と医療職の連携が速やかに行われている。終末期ケアや重度化への支援にも強く、入居から最期まで安心したケアを受けることができる。
 ・法人が地域の拠点となり、事業所で住民参加型の土砂災害避難訓練を企画、立案している。その他、地域行事などに参加し、地域住民との交流も積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者様の個性と尊厳を大切にし、本人の意思を尊重して本人の立場に立ってサービスを提供する」の理念のもと、ミーティングなどで意見交換し、より良いサービスが提供できるよう努力している。	「利用者の意思を尊重する」事が最も重要と考え、毎朝の送りの中で、理念に沿ったケアになっているか職員間で確認している。また、管理者が職員に助言や指導をすることで、業務に反映する事に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の新年会に参加させていただいたり、外食や買い物にも行き地域との交流を図っている。土砂災害避難訓練には、多くの地域の方が、参加し協力してくれている。	地区の新年会に参加したり古紙回収に協力している。また、利用者と一緒に、近所のお蕎麦屋で食事をしてもらうなど地域交流も盛んである。さらに、併設の老健と合同で、幼稚園児との慰問があり、利用者が一緒にゲームやお遊戯を楽しむ姿が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が、医療法人であることを活かし、医師が認知症や健康についての講話を町のホールやホーム等で行い、地域の貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族代表より率直な意見や要望・疑問点などをいただき、それらに応えることによりサービスの向上につながる事が出来ている。また、日頃の生活の様子をより良く知っていただく事が出来ている。	毎回6名以上の参加者で会議が行われている。事業所内の活動や取組み、運営状況の報告の他、地域の災害対策についても話し合われている。家族からの意見もあるなど、気づきや改善に繋がる会議となっている。また、会議の内容については、月1回の職員会議にて、口頭で報告されている。	運営推進会議の内容について、全職員で共有、把握できるように、議事録などの書面でも報告し、更なるサービス向上に活かせるように期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、現場の状況や行事・問題点などを報告している。また、いろいろな相談にものっていただき協力を受けている。	入居の相談や制度の解釈などで悩むときは町役場へ速やかに連絡・相談している。また、町主催の認知症の講演会に理事長が講師として参加するなど、日頃から協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、開くと音楽が鳴るようにしており、鳴ればすぐに玄関に行くようにしている。外に行きたい時には、職員が付き添い散歩に行っている。	法人内合同で年2回研修を実施している。危険が伴う非常口などは施錠しているが、玄関の施錠は行っていない。徘徊する方に対しては、可能な限り付添い支援を行っている。また、24時間点滴など安全面の配慮が必要な場合は、法人内で協議し、家族を交えた話し合いや説明を行っている。双方が納得した形でケアを進め、必要に応じて承諾書もとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が勉強会に参加し理解している。職員同士注意しあいながら日々入居者様と接している。当施設では、虐待はありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々に勉強し知識はあるが、研修内容に組み入れ理解と活用が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には見学していただき、契約時には御本人や御家族に十分に説明をし、疑問点や不安に思っていることに対し理解と納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事で来訪された時に要望・意見等をお聴きし、今後のサービスに活かしている。入居者様にはその都度聴いている。	家族から寄せられた意見については管理者・職員が真摯に説明し、対応にあたっている。利用者からは日常生活に関する意見が多く、外に出たい、出かけたいという意見があれば、一緒にドライブや外食に出掛けたりと様々な取り組みを行っている。	寄せられた意見に対し、事業所が取り組んだ内容や実践について家族へのフィードバックを強化し、より多くの意見が集まるように期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題が生じた場合には、その都度話し合い解決に近づけている。毎月一回ミーティングを開き、問題点や意見・提案を聞き即座に対応できるようにしている。	毎月1回の職員会議の中で、日ごろのケアのあり方や行事の提案、業務内容の確認など職員の考えを聞き取っている。管理者は必要に応じて個別面談を実施し、日頃から職員の意見や提案を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力・実績・勤務態度を把握し、給与等に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人の介護老人保健施設と共に研修の年間計画を立て、職員の勉強会を毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学は受け入れているが、他ホームとの交流・ネットワーク作りには取り組んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時には、可能であれば御本人様にも来ていただいている。入居時には良く話を聴き、安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の発症時期・症状等を詳しく聴き、不安を受け止められるよう努力している。要望などは、出来る限り聞き入れられるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を詳しく聴き、どのようにしたら最善の生活が送れるかを見極められるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やレクリエーション以外は自室で過ごされている方もいるが、時々訪室しコミュニケーションをとるようにしている。又、洗濯物たたみなど手伝っていただき、たたみ方など教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、最近の様子などを報告するようにしている。又、具合が悪く病院に受診した時にも電話にて報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話でのやり取りを支援している。御家族との外出時にも「友達と会ってきた」「お墓参りに行ってきた」などと嬉しそうに帰って来る方もいる。	利用者の中には友人の面会がある方もおり居室で自由に会話を楽しんでいる。携帯電話を所持している方もおり、自由に電話のやり取りもできるようになっている。また、お盆の時期には墓参りされる方もおり、関係継続が図れるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を楽しめるよう常に目を配り、孤立してしまっているときには職員が間に入り、入居者様同士会話が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の継続的な関係を望まれる御家族や御利用者様は今までいなかったが、希望があれば断ち切らない付き合いをしていきたい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望は必ずお聴きし、出来るだけ希望通りに生活が送れるよう努力している。困難な場合は、なるべく希望に近づけられるようにしている。	「ラーメンが食べたい」「山に登りたい」など、個々の要望に可能な限り、寄り添い支援している。意思疎通が困難な方は、声掛けをしながら表情を読み取り、普段と違う言動や仕草を見逃さないよう、個別ケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時又は面会時に御家族様から生活歴や職歴・趣味などをお聴きしている。御本人に聴ける場合は御本人からお聴きしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや介護記録・カンファレンスなどで現状を把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにてアイデアを出し合い、より良い介護計画になるよう努力している。必要に応じて御家族様にも参加していただいている。	全職員が日々のケアや申し送りの中で、利用者の状態を把握している。利用者の変化についてはケアマネジャーにも都度報告し、介護計画に反映させている。家族からも要望を聞き取るなど、必要な関係者と共有しながら介護計画の作成にあたり、都度モニタリングも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録等に細かく記入する事により、情報の共有が図れている。又、介護計画の見直しにも記録を見る事により役立っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特定の御入居者様に既存のサービス外のニーズがあったが、御本人様と御家族様とで話し合い合意のもと、そのサービスを行うことができた。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受付入れを行っている。運営推進会議にもいろいろな方面の方が参加してくれ、助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体が診療所のため、蜜に連絡を取り合い対応している。診療科目以外の時には、御家族様に連絡を取り他病院にて治療を受けている。	かかりつけ医の継続が可能であり、希望者には母体の診療所を紹介している。かかりつけ医を継続する方は家族に対応依頼をし、受診時には本人の様子について伝えている。看取りの段階では、訪問診療に切り替えることで適切な医療を受けられるように繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気が付いた事などすぐに報告し、指示をもらう事が出来ているので安心して対応することが出来ている。毎月2回、訪問看護あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の診療所に入院となるので、洗濯物を取りに行きながら看護職員に様子を聴いたりし、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様には、医師から話しをしてもらい、早い段階から方針を決めている。終末期の支援についての勉強会も行っており、実際に看取りも行っている。	重度化や看取りについては、入居時・状態変化時に家族へ説明し、意向の確認をしている。医師からも説明があり、本人・家族が望むケアをできる限り行っている。また、職員には、定期的「看取り介護」についての心構えやケアの方法についての研修を行っており、全職員が対応にあたるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し勉強している。実際に急変や事故が起きた時には、落ち着いて対応するように心掛けている。連絡方法も見やすい所に置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災は年2回(昼・夜間想定)、土砂災害は年1回(想定はその年により異なる)実施している。土砂災害は、地域の方にも協力を得て毎年実施している。それ以外にも自主的に訓練を行っている。	併設施設と合同で、年2回消防立会いの下、避難訓練を実施している。実際に利用者も加わり、実践に近い訓練となっている。また、事業所での土砂災害避難訓練には、12名の地域住民が参加し、協力体制を深めている。さらに、食料品などの備蓄もあり、災害時の備えも整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉遣いに注意しながら接している。「同意し否定せず」を忘れずに対応している。	「尊厳・個性の尊重」を基本に、利用者への言葉遣いや声掛けに気を配っている。管理者自ら職員の指導にあたることもあり、利用者の尊厳や人格を大切にしている。入浴の際は、1対1での支援を心掛け、シャワーカーテンを閉めるなどプライバシーへの配慮も欠かさないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や行動の中で、御本人の想いを感じとれるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、なるべく御本人の希望通りに生活できるように援助している。だが、御本人の希望通りに行かない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容はホームで出来るため、御本人の希望を取り入れて定期的にかかっている。季節や目的に合わせて、本人なりのおしゃれが出来るよう支援している。また、希望によりホーム外の理容・美容室も利用出来る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食事の準備と一緒に行動することは困難であるが、食器洗いや食器拭き・テーブル拭き・食後の掃除など出来る事を手伝って頂いている。言葉かけをしながら食事を楽しんでもらえるよう支援している。	併設施設より昼・夕食は提供されているが、朝食は事業所で手作りし、彩りや旬のものを取り入れるようにしている。また、食の楽しみが得られるよう、手作りおやつや外食を定期的に企画している。職員が同じ食事をとったり、一緒に準備することで食に対する楽しみが持てるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水に注意し、食事やおやつ時には言葉かけをしながら水分摂取を促している。あまり水分を取らない方には、御本人の好きな飲み物を用意している。食事は栄養が偏らないよう注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	言葉かけを行い、一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。歯科医師の往診もあり、必要時には利用している。御本人の希望で、かかりつけの歯科医院に行くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用者でも、尿・便秘の訴えがある時には、トイレ誘導し排泄出来るよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの状態に応じた排泄介助を心掛けている。定時の声掛けや誘導でオムツから紙パンツに移行したケースもある。また、オムツ対応の方でも座位が保てる場合は、トイレを勧めたりと自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂取してもらったり、体操に参加してもらい体を動かしたりしている。それでも排便のない時には、内服薬や坐薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を見ながら職員が1対1で入浴を支援している。浴槽は西洋風で高さがあるが、補助具等を使用し安全に配慮している。各居室にもシャワーがついており、いつでもシャワー浴が出来るようになっている。	週2回の入浴支援を行っている。入浴頻度は可能な範囲で利用者の要望に沿っている。各居室にはシャワーが設置されており、身体状態に応じてシャワー浴ができるようになっている。職員も慌てず、ゆっくりと入れるように心掛け、コミュニケーションを図りながら楽しい入浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の主張を尊重し、言葉かけを行い居室に誘導している。不安を取り除き、安心して休めるように話を傾聴したり、言葉かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を出してもらい、薬の内容を分かるようにしている。変化があったときには、医師に報告し指示を受けている。毎月2回、訪問診療あり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの習慣や楽しみごとを把握し、その行いが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に行きたいと訴え時には、散歩に出かけている。又、言葉かけをし散歩に誘っている。ドライブや外食にも行き季節の景色や食事を楽しむことが出来ている。御家族様にも安心して外出していただけるよう言葉かけをしている。	事業所周辺を散歩したり、出かけたりにしている。家族対応で法事や選挙に出かける方もいる。また、桜やコスモスの花を見にドライブに出かけたり、蕎麦屋に外食したり、栗拾いに出かけたりと、利用者の楽しみになるような外出支援を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば御家族様の合意のもと管理し、使用することが出来る。領収書などは、御家族様に渡し確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	原則、電話は希望があれば自由に利用することが出来る。但し、入居者様の状況により電話の使用を控えさせていただく場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた物や花を飾ったりし、目でも楽しめるようにしている。	広い玄関には、季節の花が飾られており、利用者の安らぎとなっている。雛祭りの際は、利用者と共に雛人形を飾り、季節感を味わえる取り組みをしている。食堂にはソファが設置されており、大きな窓から外の景色が臨め、季節の移ろいも感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とソファ席があり、自由に座ることが出来る。談話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が広くとられており、御本人の使い慣れた家具などを持ち込み、安心して過ごして頂けるよう配慮されている。各居室にもシャワーがついており、いつでもシャワーが出来るようになっている。	家具やテレビ、仏壇など、自宅で使っていたものを持参してもらい、自宅での生活と変わらない空間に努めている。また、各居室は広く、ベッドやシャワーが完備されており、一人ひとりが自由に居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子に座り、足が床につかない方には足台を置いたり、入浴時のシャワー椅子も個々に合わせ変えている。一人ひとりの状態に合わせて工夫している。		